

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **03-147897**  
 (43)Date of publication of application : **24.06.1991**

(51)Int.Cl.

**B42F 13/22**

(21)Application number : **01-287542**  
 (22)Date of filing : **06.11.1989**

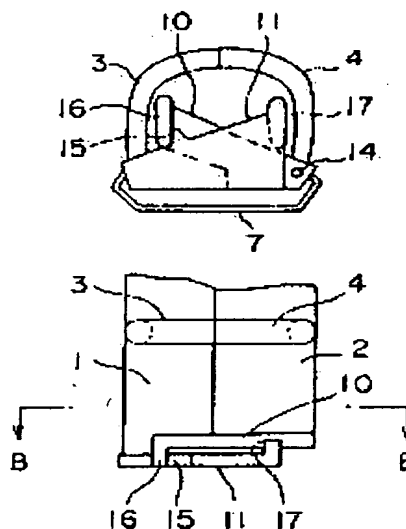
(71)Applicant : **KANEDA KATSUMI**  
 (72)Inventor : **KANEDA KATSUMI**

## (54) LOCKING DEVICE IN BINDER

(57)Abstract:

**PURPOSE:** To allow binding rings to be locked with operation knobs unlocked by a method wherein a first operation knob is provided with an engaging projection, a second operation knob is provided with an engaging piece capable of engaging with said engaging projection by pivoting in the locking direction, and the engaging piece can release the lock by moving pivotally the second operation knob in a ring open direction.

**CONSTITUTION:** The base part of a first operation knob 11 is fixed on a first substrate 1. The base part of a second operation knob 10 is pivotally fixed on the outer edge or thereabouts of a second substrate 2 with a shaft or pin 14. An engaging projection 15 is integrally provided on the upper edge of the first operation knob 11. The left edge of the engaging projection 15 is erected. Corresponding to the erect edge, the second operation knob 10 is integrally provided with an engaging piece 16 capable of engaging with the erect edge of the engaging projection 15. The engaging piece 16 engages with the engaging projection 15 to come into a locked state when the second operation knob 10 is pressed in a ring close direction and pivots about the shaft 14 to allow the release of the lock by pressing the second operation knob 10 in a ring open direction.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公告

⑫ 特許公報(B2)

平5-88680

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

片内整理番号

⑭ 公告 平成5年(1993)12月24日

B 42 F 13/22

請求項の数 3 (全5頁)

⑮ 発明の名称 バインダー綴具のロック装置

⑯ 特 願 平1-287542

⑰ 公 開 平3-147897

⑱ 出 願 平1(1989)11月6日

⑲ 平3(1991)6月24日

⑳ 発 明 者 金 田 克 己 東京都大田区中央2丁目9番15号

\textcircled{xx} 出 願 人 金 田 克 己 東京都大田区中央2丁目9番15号

\textcircled{xx} 代 理 人 弁理士 倉内 基弘 外1名

審 査 官 砂 川 克

\textcircled{xx} 参 考 文 献 実開 昭54-48724 (JP, U) 実開 昭53-161725 (JP, U)

1

## \textcircled{xx} 特許請求の範囲

1 相互に適合自在の複数の綴環を起立し且つ内  
 辺で互いに衝合した一対の第1及び第2基板と、  
 前記基板の両外辺を拘束する弾性さやと、前記両  
 基板の少なくとも一端部において第1及び第2基  
 板にそれぞれ取り付けられ互いに交差して形成さ  
 れている第1および第2操作つまみとよりなるバ  
 インダー綴具において、第1操作つまみは第1基  
 板に固定され、第2操作つまみは第2基板に枢着  
 され、第1操作つまみは係止突起を有し、第2操  
 作つまみはそのロック方向への枢動により前記係  
 止突起に係止し得る係止片を有し、又前記係止片  
 は開環方向への第2操作つまみの枢動によりロッ  
 クを解除し得る様に構成されていることを特徴と  
 するバインダー綴具のロック装置。

2 第1操作つまみは第2操作つまみの枢動を制  
 限するために第2つまみの上面に係合し得る制限  
 突起を有することを特徴とする前記第1項記載の  
 バインダー綴具のロック装置。

3 第1及び第2操作つまみは上面に斜辺を有す  
 る板状を成し、第2操作つまみの係止片は第1操  
 作つまみの斜辺上に延び、第1操作つまみの係止  
 突起は前記斜辺上に形成されていることを特徴と  
 するバインダー綴具のロック装置。

## 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はバインダー綴具のロック装置に関し、

2

更に詳しくは操作つまみにより綴環を弾発的に開  
 放する型のバインダー綴具に関する。

本発明は、綴環のロックは行なうが操作つまみ  
 のロックは行なわない機構により輸送中等の振  
 動、衝撃に対するルースリーブの偶発的な脱落を  
 防止する。

(従来技術とその欠陥)

本発明が適用される型の従来のバインダー綴具  
 は輸送中、積み換え中、その他の作業中に加わる  
 振動或は衝撃により、綴環から脱落することがあ  
 る。そのためバインダー綴具を店頭に陳列する前  
 の段階までは綴具を開放出来ないようにロックし  
 ておくことが出来ると良い。

第1図ないし第4図は本発明が適用される型の  
 バインダー綴具を示す。綴具は相互に適合自在の  
 複数の綴環3と複数の綴環4をそれぞれ起立し且  
 つ内辺で互いに衝合した一対の基板1、2と、前  
 記基板1、2の両外辺5、6を交差8、9によつ  
 て拘束する弾性さや7と、前記両基板の少なくと  
 も一端部において基板1、2にそれぞれ固定され  
 交差して形成されている操作つまみ10、11  
 (場合により更に他端のつまみ10'、11')を  
 基本構成要素とする。操作つまみ10、11は指  
 で内方へ力を加えたときに綴環3、4を開放する  
 方向にのみ作用する。綴環3、4の開きは基板  
 1、2の衝合する内辺の下部に形成された係止片  
 12、13により規制される。

(2)

特公 平 5-88680

3

4

この従来技術の綴具はルースリーフ（綴孔の開いた紙端）を綴込んだ状態で輸送等の作業を行なうため場合により綴環に外力が加わり基板が開放方向に揺動して偶発的にルースリーフが脱落することがあり、陳列作業に手間がかかるなどの問題があった。これに対して本発明者は両操作つまみに通常の閉環状態では係止しないロック用の爪をそれぞれ固定し、閉環状態の操作つまみを更に押圧してこれらの爪を互いに係止することを提案した。この方式はロックが確実であるが、一般使用者には解除方法が分からないので店頭で陳列する際にロックを解除しておく必要があり、作業に時間を要する問題がある。

（発明の目的）

従って、本発明の目的は綴環はロックするが操作つまみはロックしないで済むバインダー綴具を提供することを目的とする。

（発明の概要）

本発明は、相互に銜合自在の複数の綴環を起立し且つ内辺で互いに銜合した一対の第1及び第2基板と、前記基板の両外辺を拘束する弾性さやと、前記両基板の少なくとも一端部において第1及び第2基板にそれぞれ取り付けられ互いに交差して形成されている第1および第2操作つまみとよりなるバインダー綴具において、

特徴として、第1操作つまみは第1基板に固定され、第2操作つまみは第2基板に枢着され、第1操作つまみは係止突起を有し、第2操作つまみはそのロック方向への枢動により前記係止突起に係止し得る係止片を有し、又前記係止片は閉環方向への第2操作つまみの枢動によりロックを解除し得る様に構成されている。

本発明によると、閉環状態で第1操作つまみが揺動できるので、ロック状態、解除状態のいずれの位置にあつても良く、出荷時にロックしておいても店頭で陳列する前にロックを解除する必要がない。

（発明の具体的な説明）

次に本発明を実施例により詳しく説明する。なお第1基板と第2基板の関係は入れ替えても良い。又以下には綴具の一端のみにロック装置を形成する場合に付いて説明するが、両端にあつても良い。

実施例

いずれも閉環状態のバインダー綴具の一端部を示す第5図ないし第8図を参照する。第5図はロック状態の正面図、第6図は同平面図、第7図は第6図のB-B断面図、第8図はロック解除状態の正面図を示す。

これらの図において、バインダー綴具は相互に銜合自在の第1の複数の綴環3と第2の複数の綴環4を外辺に沿って起立し且つ内辺で互いに銜合した一対の第1基板1及び第2基板2と、前記基板の両外辺を拘束する弾性さや7と、前記両基板の一端部において第1基板1及び第2基板2にそれぞれ取り付けられ交差して形成されている板状の第1操作つまみ11および第2操作つまみ10を有する。以上の構成は公知例と同様である。

本発明に従って、第1操作つまみ11の基部は第1基板1に固定され、第2操作つまみ10の基部は第2基板2の外辺近くに軸ないしピン14により枢着されている。両操作つまみの上辺は他側の操作つまみの方へ向けて次第に高くなる傾斜面を形成している。第1操作つまみ11の上縁には係止突起15が一体的に形成され、係止突起15の左辺は直立している。これに対応して第2操作つまみ10は係止突起15のこの直立辺に係合できる係止片16を一体に有する。係止片16は閉環方向（第5図で反時計方向）へ第2操作つまみ10を押圧したときに係止突起15に係合して第5図のロック状態となり、閉環方向（第5図で時計方向）への第2操作つまみ10の押圧により軸14の周りに枢動してロックを解除し得る。

更に、第1操作つまみに11には第2操作つまみの上辺の上方に突出する制限突起17が設けられている。この制限突起17は第5図の閉環状態では第2操作つまみ10のロック及びロック解除を行なうための枢動を許容するに充分な隙間を第2操作つまみ10の傾斜上辺との間に有している。この制限突起17はこれ以上の揺動は許さないが、これは基板1、2をさや7の弾力に抗して解環位置に移動させるために力を第2操作つまみ10からこの制限突起17に及ぼさせるためのものである。

第9、10及び11図は本発明の他の例を示す。この例では第1操作つまみ11の係止突起15の根元の部分が図のように凹所20を有すると共に、第2操作つまみの係止片16の先端が先き

(3)

特公 平 5-89680

5

6

の例の先端22よりもさらに突起片21として突出しており、これが第11図のようにロック状態のときに凹所20へはまる。この例によると凹所20によつて突出片21が拘束されるので一層確実なロック作用が得られる。

(作用と効果)

以上の構成において、先ず本発明のバインダー綴具は第4図に示したと同様な綴環が開環した状態にあるものとする。

この状態から、ルースリーフを挿入した後綴環3、4を相互の方向に押圧すると基板1、2は弾発的に移動して第8図の開環状態になる。このとき第2操作つまみ10の係止片16は第1操作つまみ11の係止突起15の頂部に引っ掛かる。ついで第2操作つまみ10押し下げると、操作つまみ10は軸14の周りに枢動し、係止片16は係止突起15の垂直辺にしっかりと摩擦係止し第5～7図のロック状態となる。この状態で綴環3、4を開放する方向の外力が加わつたとしても基板を開放方向へ揺動しようとする力は係止片16と係止突起15の係止力を強める方向に働くから、ロックは外れない。

綴環を開放したい場合には両つまみ10、11を相互の方向に押すと、先ず第2操作つまみ10が軸14の周りに枢動して第8図の状態になる。25

更に押圧すると、第2操作つまみ10が制限突起17により枢動を制限されるから、両操作つまみに加わる力は基板1、2を開環方向に弾発的に回転する力として作用する。こうしてルースリーフの交換が出来る。

5

次に使用者が綴環を閉鎖すると再び第8図の状態となるが、使用者はこの状態からロックを行なう必要はないし、又たとえロックを行なつても綴環の開閉操作には何らの障害にもならない。

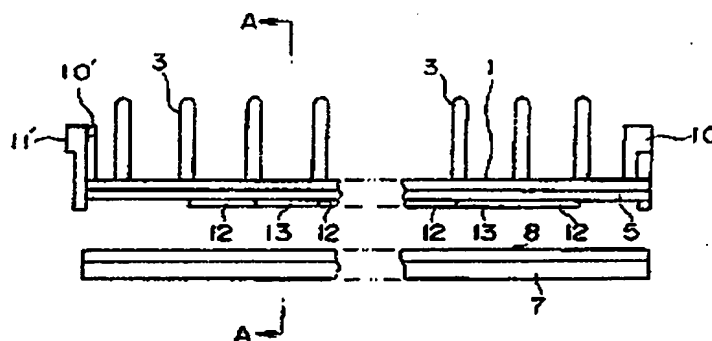
以上のように本発明は、綴環の開閉操作には何らの邪魔にもならないが、綴環の偶発的な開環を阻止する事が出来るバインダー綴具を提供するものである。

図面の簡単な説明

第1図は従来の綴具の分解側面図、第2図は同綴具の正面図、第3図は同正面図、第4図は綴環が開環状態にある従来の綴具の斜視図、第5図は本発明の綴具の正面図、第6図は同部分平面図、第7図は第6図のB-B断面図、及び第8図は本発明の綴具のロック解除状態を示す正面図である。第9図は本発明の他の実施例のロック解除時の綴具の正面図、第10図は同綴具一端部の側面図、及び第11図はロック時の綴具の正面図である。

20

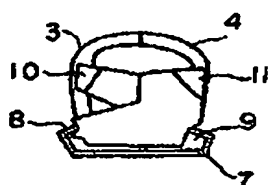
第1図



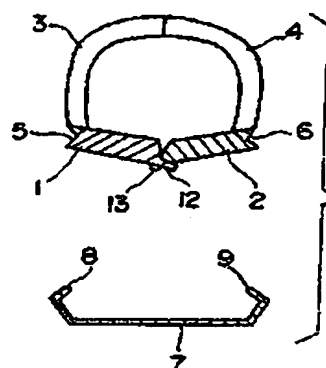
(4)

特公 平 5-88680

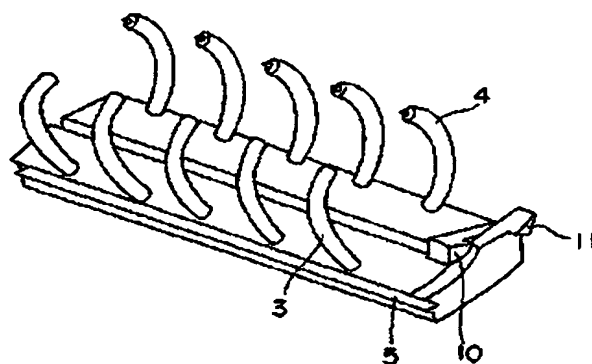
第 2 図



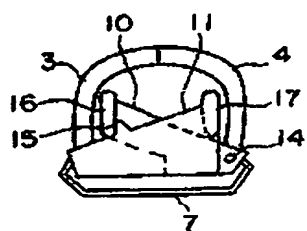
第 3 図



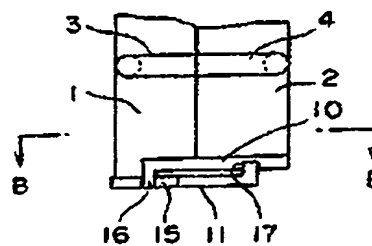
第 4 図



第 5 図



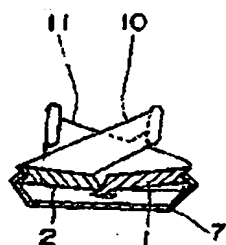
第 6 図



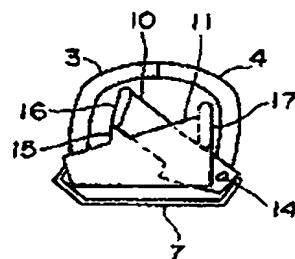
(5)

特公 平 5-88680

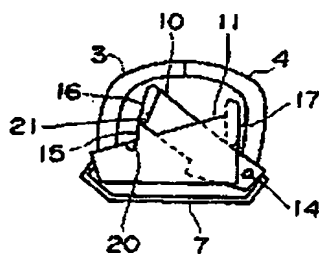
第7図



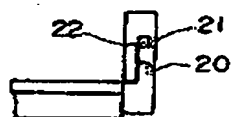
第8図



第9図



第10図



第11図

